

発言通告表（一般質問）

令和7年2月定例会

順位	氏名（議席）	発言の要旨
1	望月 徹（11）	<p>1. 財政 将来負担比率の改善と総費用の改善について</p> <p>本市の財政状況について当局は、令和5年度決算について実質赤字比率及び連結実質赤字比率は算定されず、実質公債費比率及び将来負担比率も早期健全化基準に比べ大幅に低い数値となっており、健全な財政状況を示しているとの見解である。</p> <p>将来負担比率の早期健全化基準は350.0%に対し、本市は63.8%と大幅に低い数値であるが、他市町と比較すると県内で最下位。全国でも1700以上の市町のうち、下位に属していると聞いている。財政力指数等は県内平均を上回る数値を示す中で、将来、財政を圧迫する可能性の度合いを示す数値が高いことは、今後の市政発展に大きなマイナス要因と捉え、以下質問する。</p> <p>(1) 他市町と将来負担比率を比較すると、算出時に将来負担額の控除項目である地方債現在高等に係る基準財政需要額見込額が、他市に比べ大幅に低いことが大きな要因と捉えるが、当局はどのように分析されているか、お伺いします。</p> <p>(2) 本市は今年度総合体育館の建設が終わり、次年度以降も富士駅北口再整備事業、市全体では、令和13年度開院に向けた市立中央病院の建て替えによる一般会計への負担が大幅に増えることが想定されるので、将来負担比率がさらに悪化していくと捉えるが、当局の見解を伺います。</p> <p>(3) 歳入のうち市税は、今後大幅な増加は見込みにくいと捉えるが、今後5年間の収支見込みの試算で歳出の見込みをどのように捉えているか、伺います。</p> <p>(4) 公債費の固定的支出が増加することは、収入を同一と仮定した場合、一般会計の歳出の削減が求められる。総費用を増加させる施策、例えば、まちづくりセンターの指定管理者への移行などは、総費用の増加につながると捉える。総費用の減少を検討すべきと考えるが当局の見解を伺います。</p> <p>2. 市民サービスの向上 受付窓口などでの多忙期の対応について</p> <p>行政の手続の対応について、一つの実例を取り上げ質問する。</p> <p>おくやみ窓口での手続が、現状、亡くなられた方の約50%と市民の皆様から高い評価を得ていること。年末から1月にかけて例年亡くなる方が増えていること、特に本年は多いこともあり、1月30日現在、予約日が3月となっている。従来、連絡をして10日以内で対応することで、内容を含め高い評価を得ていることから、多忙時の対応について、以下質問する。</p> <p>(1) 従来から1月は多忙な時期となっており、予約が長くなることに対し、どのような改善策を実施してきたか、お伺いします。</p> <p>(2) この時期に合わせ、人的な対応を増強すること、窓口を増やすことで、素早い対応につながると考えるが、当局の見解を伺います。</p> <p>(3) おくやみ窓口以外でも、混雑する時期、部署があるが、多忙期の対応について、どのような施策を取っているのか、お伺いします。</p>